

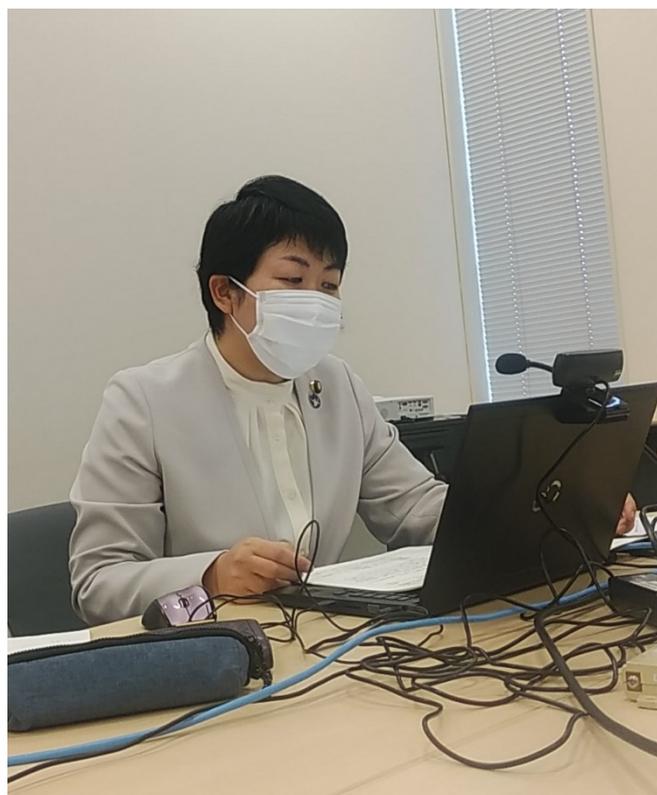
転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

第99回院内集会開催報告

院内集会新シリーズ「福島復興策、廃炉事業の進展に関わる各政党の方針・判断を聞く」の2回目は、1月28日、日本共産党の岩淵友参議院議員を参院議員会館 102 会議室および ZOOM 会議に招き行われました。

岩淵議員は、福島第一原子力発電所事故により避難を余儀なくされた住民を中心に被害が今も続いていること、その救済が十分ではないことを、避難住民の生活実態をまじえ報告されました。

また、被害者の ADR (原子力損害賠償紛争解決センター) への賠償申し立てに対しセンターが和解案を示しても、東京電力が和解を拒否してきた問題、さらに、2011 年に原子力災対本部が定めた避難指示の解除の要件が満たされないまま、避難指示解除が進められようとしている現状の問題点についても語られました。



岩淵議員が講演で使用された資料についてはこちらをご覧ください。

<http://svcf.jp/wp/wp-content/uploads/2021/02/20210128-innnaisyuukai-siryuu.pdf>

＜行動隊では、岩淵議員に事前に質問をお送りし、会場で以下の回答が得られました＞

(質問1) 新型コロナウイルスの感染拡大により大幅な景気後退と行動規制が強いられているなかで、福島県の「第3次復興計画 2015年12月25日」を遂行する上で必要な補強の手立てどのように考えられているか。

(回答) 福島県議にどのように進んでいるかを尋ねたところ、東日本大震災から10年に向けて改訂作業を進めている。9月頃の改訂をめどに作業を進めているとのことだった。

(質問2) 福島復興事業と車の両輪とされる廃炉作業の現況についての判断、並びに廃炉のゴールをどのような状態と考えるか。

(回答) 廃炉作業は「ロードマップ」通りに進んでいない。廃炉は通常は更地にすることだが、福島第一原発をどうするかは県民のみなさんの議論が必要だと考えている。

(質問3) ALPS 処理水の最終処分はどのように行われるべきだと考えているか。

(回答) 当面は陸上保管が良いと考えている。タンクを造るスペースとしてはイチエフの敷地の北側は空いている。保管中に放射線量も下がっていく。また、トリチウムを取り除く技術開発も各方面で取り組まれている。

(質問4) 福島原発行動隊が、東日本大震災/原発事故直後に発足して以来主張してきた「原

発事故の収束作業に当たる若い世代の放射能被曝を軽減するため、比較的被曝の害の少ない退役技術者・技能者を中心とする高齢者が、長年培った経験と能力を活用し、現場に赴いて行動する」ことをどのように考えるか。

(回答) 詳しくは知らなかった。皆さんの技術や経験を活かしていただけたらいいと思う。

99回も院内集会を続けていることに感心した。

＜また講演後、時間いっぱい下記のような活発な意見交換が行われました＞

(意見) 広島の実態を伝えることが大事。「東日本大震災・原子力災害伝承館」もできているが語り部の方たちに「一企業批判」は行わないように要請されていたりもする。

(意見) 賠償問題だが、国の方針が誤りであったことが原因。被害者が「立証しなければならぬ」などは論外。

被害はその現場に行かないと実感できない。私は一カ月に一週間は福島に行くように心がけている。環境省を福島に移して職員は住民登録を行う。そうすれば他人事ではなくなる。

(質問) 現在タンクに溜まり続けている、多核種除去設備(ALPS)等により一次処理された汚染水を、ALPSにより二次処理し、トリチウム以外の放射性核種を告示濃度限度未満とする予定のALPS処理水の最終処分方法に関して、風評被害対策としては、福島県沖への近海放水処分は間違っていると思うが、沿岸から遠い日本の領海内への海洋処分についてはどう考えるか？

(岩淵) タンクには他の核種も入っていて放出には問題がある。

(質問) ALPS処理水に関して他核種も含まれているという間違った情報が流されている。『しんぶん赤旗』で事実を伝えてほしい。告示濃度限度以上の他核種が含まれているかどうかということは総量を測れば分かる。安全かどうか分からないというのは科学的な問題ではなく社

会的な問題だ。また、トリチウムは告示濃度限度未満の濃度で放出すれば人体、環境への影響がないというのが世界の科学者の定説だが、海洋放出でも大気放出でも何が危険だと考えて反対なのか。

(岩淵) 汚染水は事故により発生した汚染水である。これまでの経過において東電、国に信頼性が失われている中での判断を求められている。

(意見) 風評被害で福島産水産物、水産加工物の販売が困難な状況に鑑み、『しんぶん赤旗』などで「福島県産水産物、水産加工物を購入しよう！」というキャンペーンを行ってほしい。

(岩淵) 福島の魚の放射能は検査されている。水揚げそのものが震災前より落ち込んでおり、なかなか食べることができない実態もある。

(意見) 事故の責任は東電と国だけではない。誘致したのは福島県の方々ではないか。

(岩淵) 必ずしもそうではない。原発に反対してきた福島の人もいる。生活の苦しさもあって原発立地に賛成してきた人もいる。雇用の少なさ、農業だけでは生活が成り立たない人もいた。そして、原発は「安全」と言われ続けて信じた人もいる。

(意見) いつまで「緊急事態宣言」を継続させるべきだと考えておられるのか？「緊急事態宣言」が解除されないのに避難指示が解除されるのはおかしい。20 mSv/y以下の基準で避難指示を解除しても、「緊急事態宣言」が解除されれば環境基準1 mSv/yに持っていかねばならなくなる。放射能汚染は福島だけの問題ではない。放射線管理区域は5 mSv/yである。放射性管理区域はどこでもある。ダブルスタンダードだ。それにもかかわらず、除染計画や賠償計画が実施出来ていない。10年を経たかどうなっただか検証する必要がある。ADR(原子力損害賠償紛争解決センター)への申し立てはどこでも闘っているが、南相馬市の8行政区の人は訴訟で勝っている。なぜ勝てたのか検証する必要がある。

(意見) 講師は「イチエフの廃炉作業は中長期ロードマップ通りに進んでいない」とおっしゃられたが同感。中長期ロードマップは5回の改訂を経ながら、廃炉作業のリアルな進捗状況を

踏まえず、2011年から40年後(2051年)という廃炉のゴールの時期を見直していない。そしてそのゴールの時期が、前のめりの避難指示解除や復興施策、また処理水の取扱いに関する小委員会報告書でALPS処理水の長期陸上保管を選択肢から外す口実になっている。ロードマップにおける廃炉のゴールの時期の見直しに向けて、野党として動くべきではないか。

(岩淵)重要なことだと思う。持ち帰って検討したい。

(質問)東日本復興特別委員会は開かれているのか。

(岩淵)あまり開かれていない。大臣の所信に対する質疑、法案があればその審議くらいになっている。

旧聞ですが…高田島ヴィンヤード(福島県川内村)で収穫祭

2019年の変更により定款に位置づけられた福島復興支援事業の一環として、[SVCF通信127号](#)ほかで、具体的な支援内容を報告している福島県川内村の葡萄園ですが、今回は葡萄園そのものの紹介を中心にした報告をお届けします。

一日も早くコロナを終息させ、広大なヴィンヤードでの支援作業を再開させたいものです。



<https://www.youtube.com/watch?v=OidpxwV2jR0&feature=youtu.be>

会員 杉山 隆保

2020年10月2日に福島県川内村の高田島ヴィンヤードで収穫祭が行われました。東京電力福島第一発電所事故で大きな被害を受けた村の農業と観光の柱にしようと2016年に植栽が始まり、現在は約三ヘクタールの畑で約一万一千本が栽培されています。

2019年は強風や低温の影響で収穫量が確保できずに、醸造が見送られました。

2020年も長雨と夏の高温でワイン醸造用ブドウ・シャルドネ種以外は収穫出来ませんでした。

それでも約550キロが収穫されて山梨県の醸造会社に醸造が委託されています。

10月19日には現地でワイナリー建設の安全祈念祭が行われました。再来年には川内村産のワインが誕生します。

行動隊と川内村の付き合いは長く、川内村復興祭には毎年、ブースを出し協力してきました。また、環境放射線モニタリング作業の覚え書を村と交わっていて、住民から測定の要望が出されれば隊員を派遣してきました。

かわうちワイン株式会社の紹介

川内村は、復興を目指すなかで、一般社団法人

葡萄酒革進協会から「ワインを活用した新産業に挑戦しませんか。」という提案を受け、村の北西部、阿武隈高地に畜産振興のために村が所有していた広大な草地の一部（現在は約3ヘクタール）で醸造用のワインぶどう栽培を始めることになりました。



葡萄園では、2016年から、ボランティアの皆さんや地域の皆さんにより、メルロー、シャルドネ、それにカベルネ・ソーヴィニヨンの苗木が植え付けられ、現在では約11,000本に達しています。

高田島ヴィンヤードと名付けられた葡萄園では、ボランティアの皆さんや地域の皆さんが除草や剪定などの栽培作業に加わり、村内外のファンも多く、村の復興、新たな農業への挑戦、地方創生の取り組みとして、収穫された醸造用ぶどうを元にしっかりとワインを生産することを目指し、村の交流人口や定住人口の拡大にもつなげていこうとしています。

（同社ホームページを参照しました。）

<https://www.kawauchi-wine.com/>

<第100回院内集会>

日時：2月26日（金）11～13時

会場：参議院議員会館（地下鉄有楽町線永田町駅国会方面改札、丸ノ内線・千代田線国会議事堂前駅徒歩3～5分）
地下1階 B101会議室

演題：福島復興策、廃炉事業の進展に関わる各党の方針・判断を聞く

講師：松本文明衆議院議員（自由民主党 比例東京ブロック選出）

<第101回院内集会>

日時：3月25日（木）11～13時（予定）

会場：参議院議員会館（室は未定）

演題：福島復興策、廃炉事業の進展に関わる各党の方針・判断を聞く

講師：福島みずほ参議院議員（社会民主党）

<SVCF通信132号>

3月17日（水）発行予定

<理事会>

3月19日（金）11:30 淡路町事務所

<連絡会議>

以下の各金曜日10:30から。

2月19日、26日（この日のみ10:00から）

3月5日、12日、19日、26日

会場は、いずれも**行動隊淡路町事務所**

